

令和4年度 飯田OIDE長姫高等学校定時制 学校評価表

《学校教育目標》	＜定時制教育目標＞
幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをととして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する。	不登校・外国由来の生徒などを受け入れる中で、安心して学習できる場を確保しながら、生徒が社会的に自立していける力を育む。
	今年度の重点目標
	<p>1. ライフスタイルや学習状況に合わせた学習支援と基礎学力の定着 じっくりと時間をかけてわかる授業、伸ばす授業を工夫して基礎学力定着を図る。学習状況の実態を把握し、各教科において「学び直し」等により、個に応じた学力の伸長を支援する。</p> <p>2. 特別支援教育の充実とじめ・体罰のない安心安全な学校づくり 学校全体で組織的に特別支援取り組み、外部機関・保護者・地域社会と協働した生徒支援をおこなひ、すべての生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる学校づくりを進める。</p> <p>3. 生徒を社会へつなげるためのしくみづくり 定時制教育振興会や、就労支援の外部団体、ハローワークや地元の教育機関育に連携により、生徒の就業体験の機会を増やし、進路実現のためのしくみを構築していく。</p>

【評価の基準】 A：十分 B：おおむね十分 C：やや不十分 D：不十分

領域	重点目標との かわり	大項目	目標や評価の項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善 向上策等
教科指導・学習活動	① ②	授業・学習の充実	基礎・基本の定着	高校生として必要な、最低限の内容を各教科で検閲し、その定着を図ることができたか。	基礎学力の定着では一定の成果があった。社会生活に必要な力（ソーシャルスキル）も身につけつつある。	B	中学以上のレベルの学力が定着するよう指導するとともに、社会常識も身につけさせたい。
			個に応じた学力支援	「学び直し」等により、生徒ひとり一人にあった学習支援ができたか。	「バーシック」授業で「学び直し」の支援を行った。生徒個々に対応するには、さらなる工夫が必要である。	B	生徒の学びを促すため、授業の工夫、職員間の情報交換を恒常的に行う。
			授業評価の実施	生徒による授業評価を行い、それを反映した授業づくりができたか。	生徒による授業評価(年2回)を授業に反映することができた。	A	改善点・課題を明確にして授業内容の向上に更に努めたい。
生徒指導	① ②	生徒指導の充実	安心・安全な学校づくり	日頃より声掛け、面談などで生徒の心の変化に気づき、適切な対応をとる。学校生活アンケートで、生徒の実態をつかみ、生徒が安心・安全に学校に通える環境づくりができたか。	特別支援委員会など、教員全体で連携を密に取り合いながら、学校生活の各場面で生徒の実態把握に努力した。	A	生徒の見守りや、生徒とのコミュニケーションを日常的にとり、生徒と繋がり合う生徒指導を行いたい。
			予防的・啓発的生活指導	反社会的行動についての知識・理解を深め、生徒一人ひとりが正しい善い行動ができるようよう指導できたか。	LHRや外部講師による講演会などを設けて指導ができた。	B	SNSによるトラブルがないよう、予防的な呼びかけを通じて情報リテラシーを育てたい。
自主活動・特別活動	② ③	部活動の充実 生徒会での取り組み	生徒の能力・自主性の指導・援助	部活動をととして、個人の能力や自主性を高め、定通大会等へ参加し、活躍できるような指導・援助を行うことができたか。	運動部は各種大会に参加することができた。文化部は新型コロナ対策のなか、自主的な練習などの活動を行った。	A	地域との連携も視野に入れ、生徒の自主的な活動を継続していきたい。
			各生徒会行事への取り組みと集団との関わり	文化祭などの生徒会行事へ積極的に参加するとともに、計画、実行まで生徒が主体的に関わるような指導ができたか。	文化祭に新企画を盛り込むことができた。生徒の反響もよく、より積極的に生徒会活動を行うことができた。	A	生徒と話し合いながら、生徒会活動を盛り上げていきたい。
進路指導・キャリア教育	③	進路指導・キャリア教育の充実 定時制教育振興会との連携強化	進路ガイダンスの充実	どの生徒にも、平等に情報の提示と説明を行い、確かな職業感を持てるように指導できたか。	4年の進学・就職指導はまずまずあったが、他学年の進路指導が担当任せであった。	C	主任と各学年、全職員が一体となって取り組めるように、細案を示し情報交換をしながら進めていきたい。
			定時制教育振興会との連携	定時制教育振興会との連携	定時制振興会と連携をとりながら未就労の生徒へ対して、就労体験等の機会を設けることができたか。	今年度も就業先を紹介していただき、生徒の就業のきっかけになった。	B